

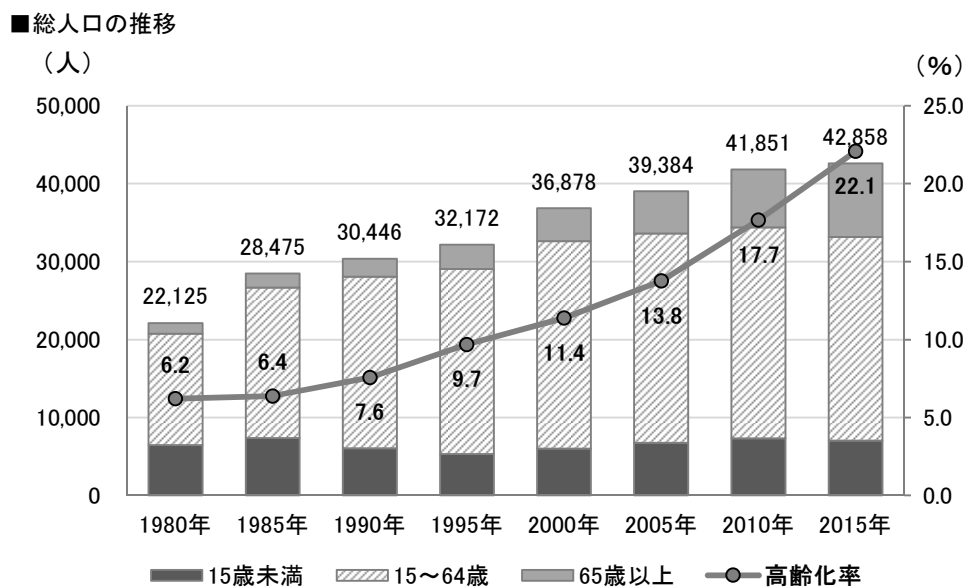
第2章 東郷町の現状と課題

1 統計データから見た東郷町の状況

(1) 人口の状況

本町の総人口は、継続して増加しており、2015（平成 27）年には、1980（昭和 55）年の約 2 倍になっています。

また、高齢化率※は上昇しており、2015 年時点で 22.1%です。

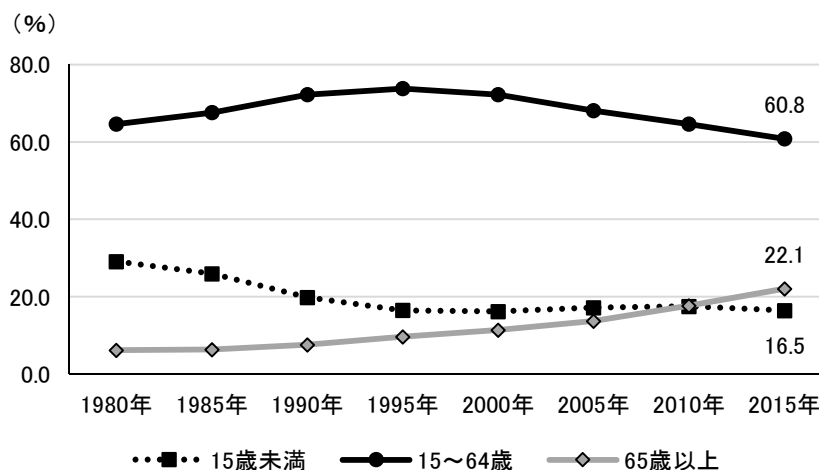


資料：国勢調査

※高齢化率・・・総人口のうち 65 歳以上の高齢者が占める割合

年齢3区分別人口割合をみると、15歳未満の年少人口割合と15～64歳までの生産年齢人口割合が徐々に低下しています。2010（平成22）年を境に、65歳以上の老年人口割合が15歳未満の年少人口割合を上回っており、高齢化が進行しています。

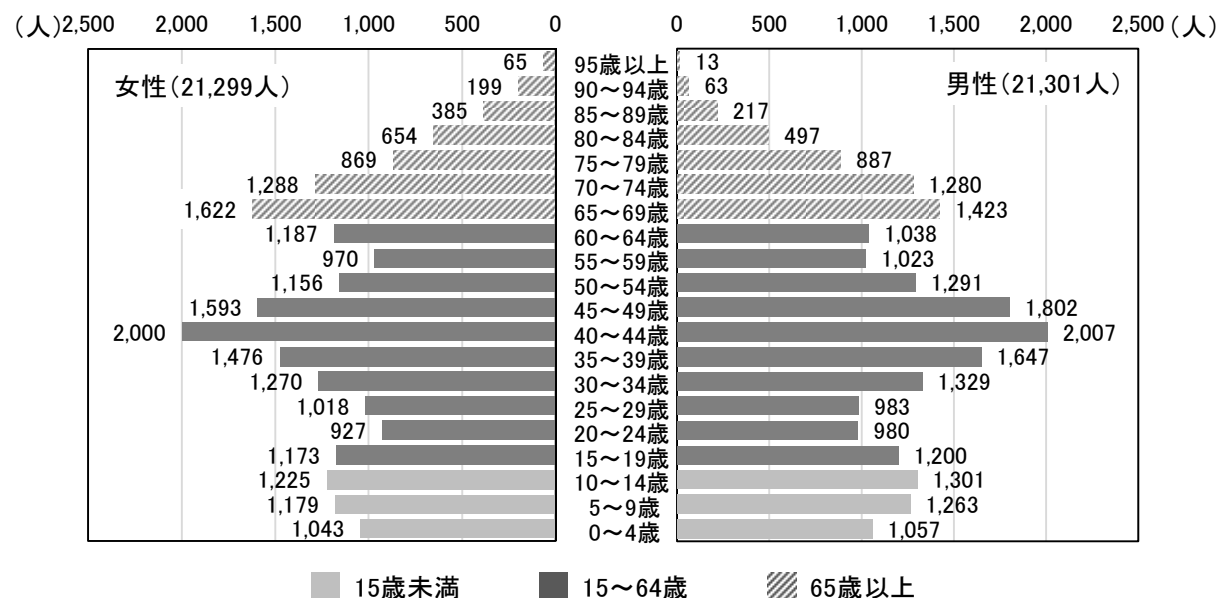
■年齢3区分別人口割合の推移



資料：国勢調査

人口ピラミッドをみると、40～49歳の働き盛り世代と、65～74歳のいわゆる団塊の世代を含む階層で人口が多くなっています。

■人口ピラミッド



資料：国勢調査（2015（平成27）年）

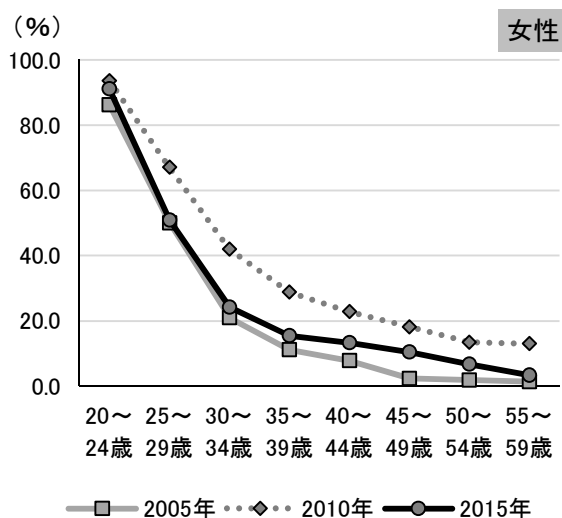
※「年齢不詳」を除く

(2) 婚姻の状況

本町の未婚率の推移をみると、女性では2005（平成17）年から2010（平成22）年にかけては未婚率が高くなりましたが、2015（平成27）年には低下し、2005年と2015年はほぼ同じ値になりました。一方、男性では、2005年から2010年は低下し、2015年に上昇しました。特に35歳以上の未婚率が上昇しています。

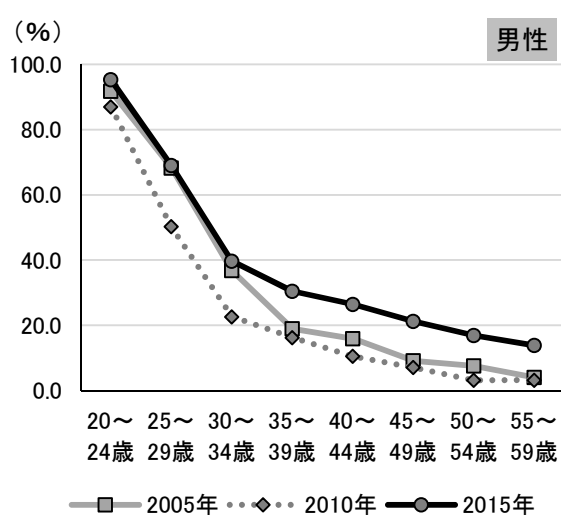
また、2015年における全国、愛知県の未婚率と比較すると、女性の未婚率は全国、愛知県に比べて低く、男性は、愛知県よりも高く、全国値に比較的近い数値です。

■女性の未婚率の推移



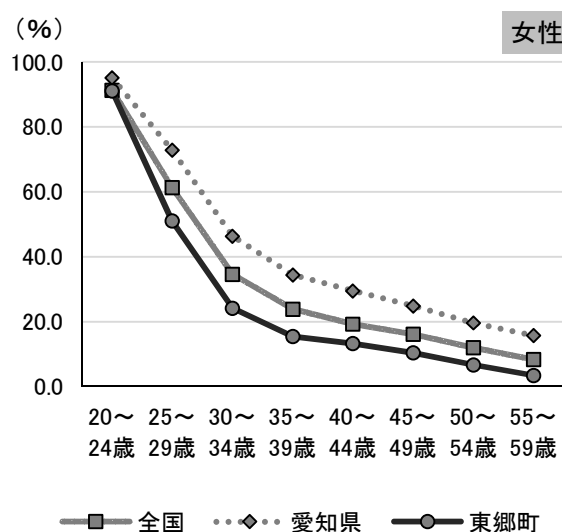
資料：国勢調査

■男性の未婚率の推移



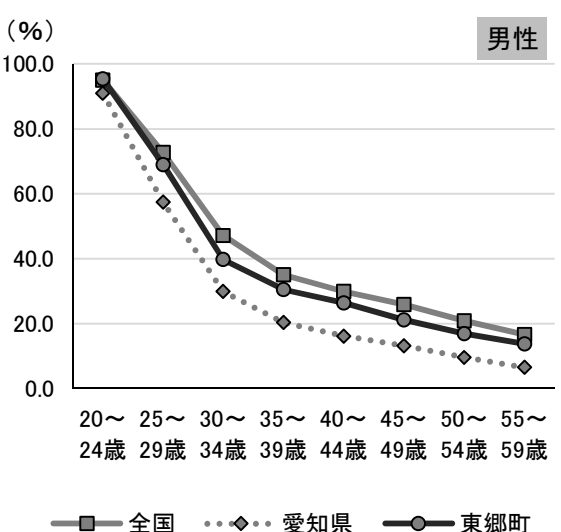
資料：国勢調査

■女性の未婚率(2015年、全国・愛知県比較)



資料：国勢調査

■男性の未婚率(2015年、全国・愛知県比較)



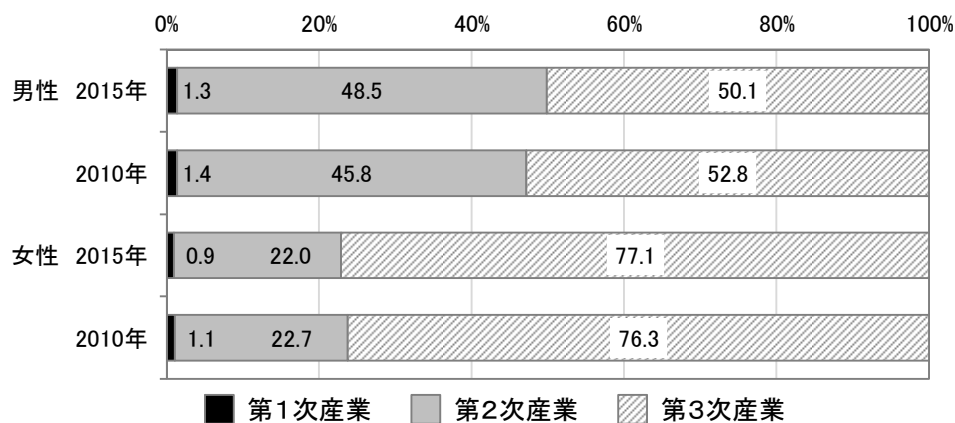
資料：国勢調査

(3) 労働の状況

本町の男女別産業分類別就業者数の割合をみると、サービス業などを含む第3次産業がいずれも最も高くなっています。男性では、建設業、製造業などを含む第2次産業が女性よりも20ポイント以上高く、一方、女性では、第3次産業の割合が男性よりも20ポイント以上高くなっています。

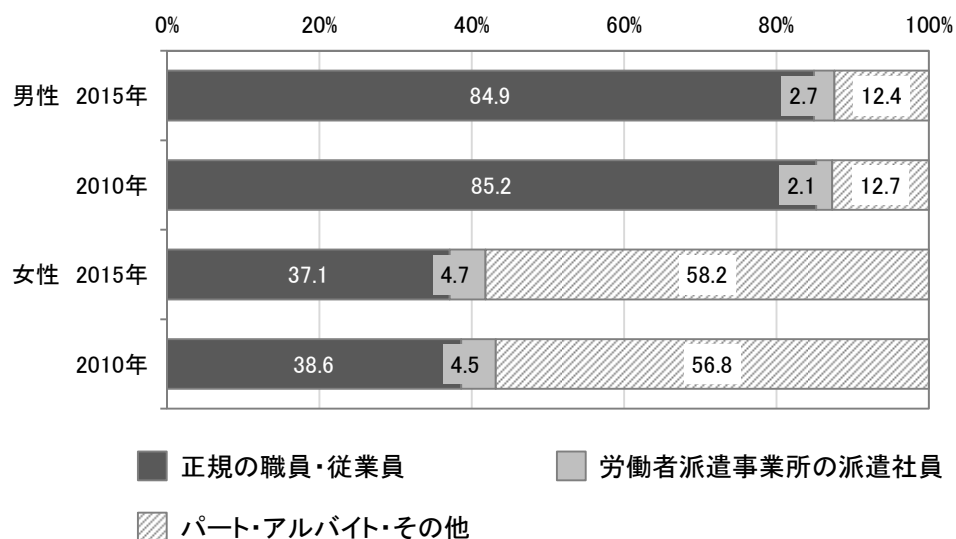
また、男女別雇用者の雇用形態別の割合をみると、男性は正規の職員・従業員が8割を超えています。女性では、4割弱で、パート・アルバイト・その他が5割を超えています。これらの状況は、2015（平成27）年と2010（平成22）年では、ほとんど変化はありません。

■男女別産業分類別就業者数の割合



資料：国勢調査

■男女別雇用者の雇用形態別の割合

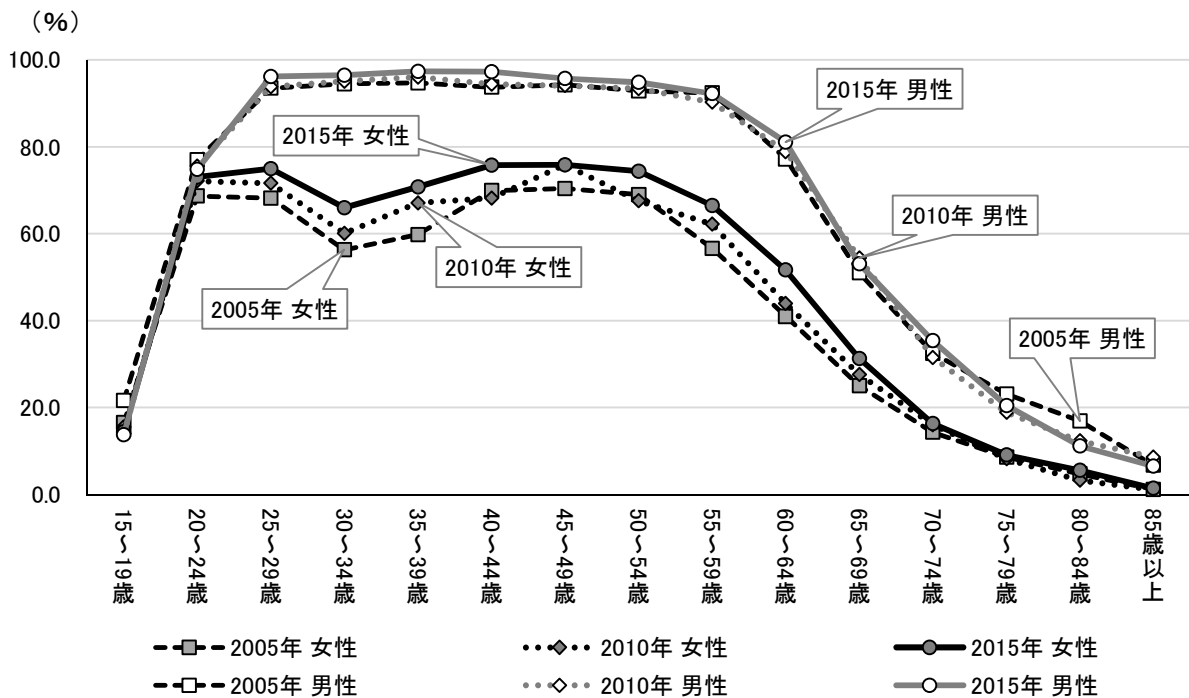


資料：国勢調査

年齢階級別の労働力率をみると、女性では 30 歳代前半に大きく労働力率が下がるM字カーブを描いていますが、その谷は年々浅くなっています。就労を継続する女性の増加や、結婚や出産年齢の高齢化などが影響していると考えられます。

男性では経年変化は見られず、20 代後半から 50 代後半まで 90%を超える高い水準を保ち、その後は徐々に減少しています。

■東郷町の労働力率の推移



資料：国勢調査

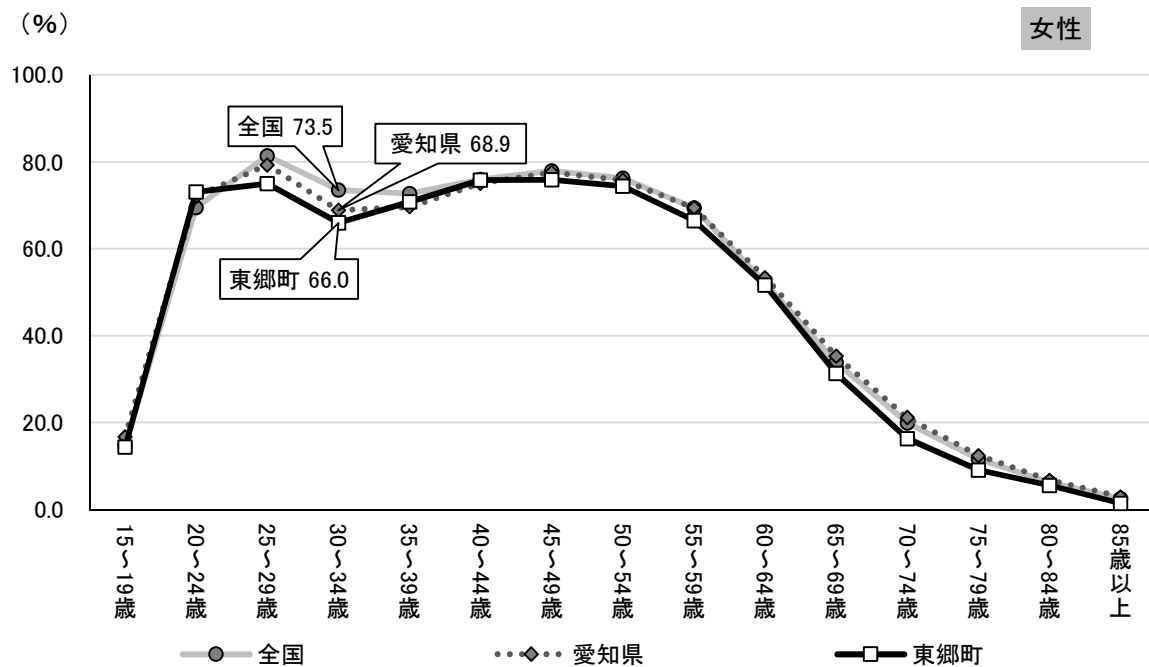
■『M字カーブ』

日本の女性の労働力率を年齢階級別にグラフ化したとき、30 歳代を谷とし、20 歳代後半と 40 歳代後半が山になるアルファベットのMのような形になることをいいます。これは、結婚や出産を機に労働市場から退出する女性が多く、子育てが一段落すると再び労働市場に参入するという特徴があるためです。なお、国際的にみると、アメリカやスウェーデン等の欧米先進諸国では、子育て期における就業率の低下はみられません。

出典：内閣府「第4次男女共同参画基本計画」

女性の労働力率について、全国、愛知県と比較すると、M字カーブの谷は本町が最も深くなっていますが、35歳以降は全国、愛知県とほとんど差はありません。

■女性の労働力率の比較【全国・愛知県比較】

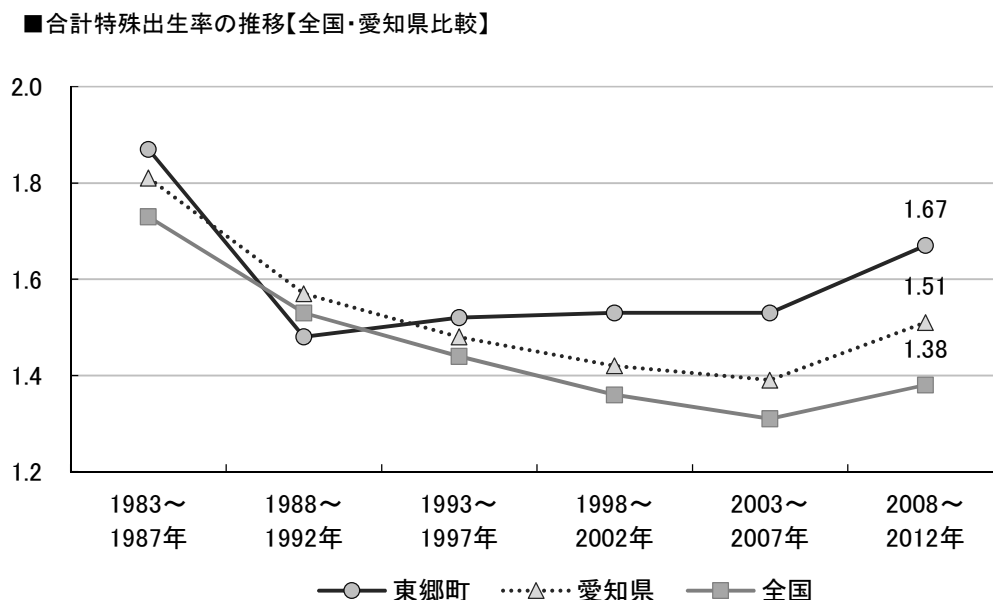


資料：国勢調査（2015（平成27）年）

(4) 合計特殊出生率※の状況

本町の合計特殊出生率は、1988（昭和 63）年～1992（平成 4）年以降、上昇しており、2008（平成 20）年～2012（平成 24）年では 1.67 となっています。

全国、愛知県と比較すると、高い値となっています。



資料：厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計」

■ 『人口置き換え水準』

人口が将来にわたって増えも減りもしないで、親の世代と同数で置き換わるための出生率の水準を表す指標です。

人口置き換え水準に見合う合計特殊出生率は、女性の死亡率等によって変動するので一概には言えませんが、日本における平成 27（2015）年の値は 2.07 です。

人口置き換え水準を下回ると少子化や人口減少が進行していくと言われています。

※人口置き換え水準は、国立社会保障・人口問題研究所で算出しています。

出典：厚生労働省「平成 29 年 我が国の人口動態」

※合計特殊出生率・・・15 歳から 49 歳までの女性の年齢別出生率を合計した指標であり、1 人の女性が一生の間に産む平均の子どもの人数を表したものです。

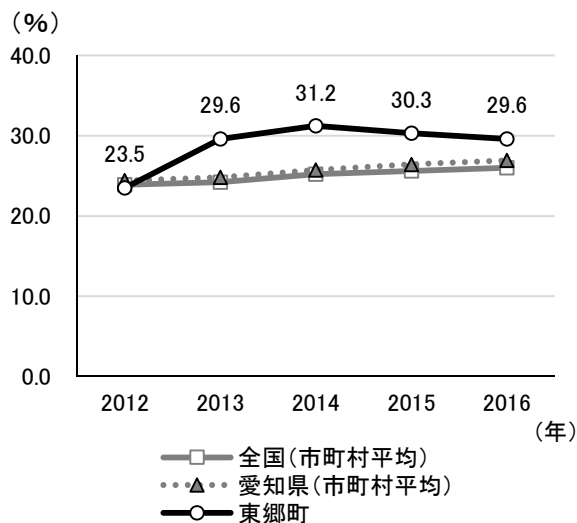
(5) 審議会等への女性の参画状況

本町の審議会等に占める女性委員の割合は、2014（平成 26）年まで上昇傾向でしたが、2015（平成 27）年以降はやや低下しています。また、全国・愛知県の市町村平均と比較すると、2013（平成 25）年以降、高い値となっています。

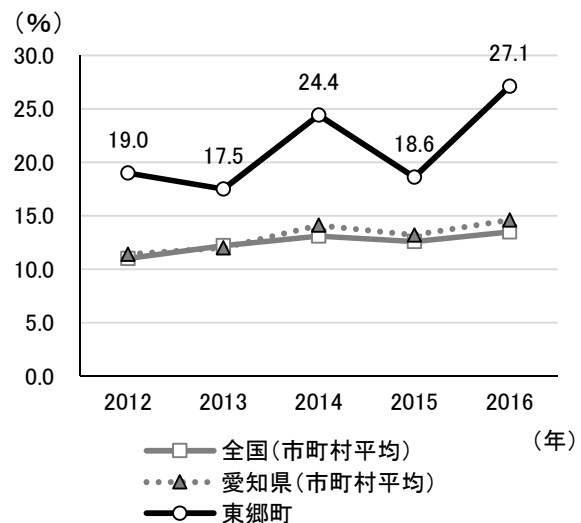
町役場の管理職（課長職以上）に占める女性の割合をみると、2016（平成 28）年は 27.1% で、過去 5 年のうちで最も高く、全国・愛知県の市町村平均と比較しても、高い値となっています。

また、町村議会議員に占める女性の割合は、2014 年から 2015 年にかけて、約 2.5 倍上昇しました。愛知県の町村や全国の町村と比較すると、本町は、女性の議会議員が多く、女性の参画が進んでいることがわかります。

■ 審議会に占める女性割合の推移と比較



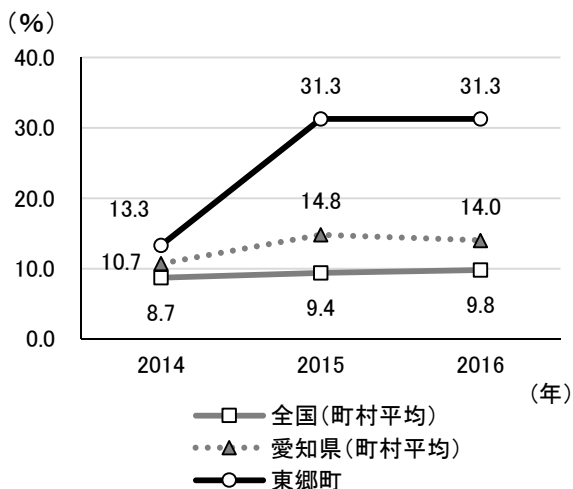
■ 管理職（課長職以上）に占める女性割合の推移と比較



資料：内閣府「地方公共団体における男女共同参画社会の形成又は女性に関する施策の推進状況」（各年 4 月 1 日）

資料：東郷町くらし協働課

■ 町村議会議員に占める女性の割合



資料：「町村議会実態調査結果」（各年 7 月 1 日）

2 男女共同参画をめぐる現状と課題

現状 1 固定的な性別の役割分担意識や男女の不平等感が残っている

2016（平成 28）年度に実施した東郷町男女共同参画社会に関する意識調査項目の「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という固定的な役割分担意識について、全体では、『反対』が『賛成』を上回り、前回の調査結果から意識の変化がみられます。

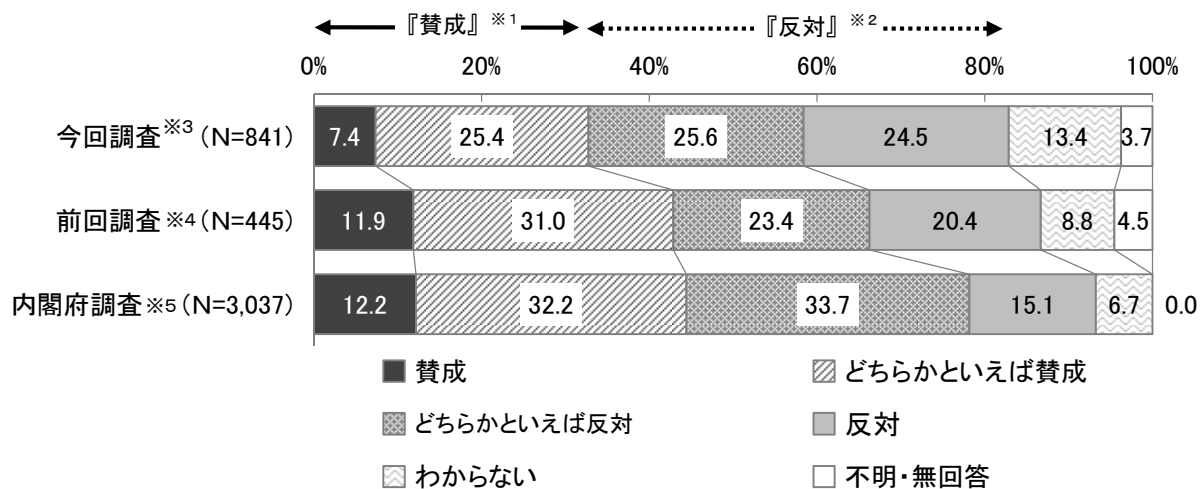
しかし、70 歳代以上では、『賛成』の割合が高齢になるほど顕著に高くなっています。

また、男女の地位の平等感では、家庭生活、職場、政治の場、社会通念等様々な場において、男性が優遇されていると感じている人が多くなっています。

▼課題 1

- ◆固定的な性別役割分担意識など男女共同参画に関する意識の改革
- ◆男女共同参画に関する学習（教育）の充実

■「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」という固定的な役割分担意識



資料：東郷町男女共同参画社会に関する意識調査（2016（平成 28）年度）

※1 『賛成』・・・『賛成』と「どちらかといえば賛成」を合わせたもの

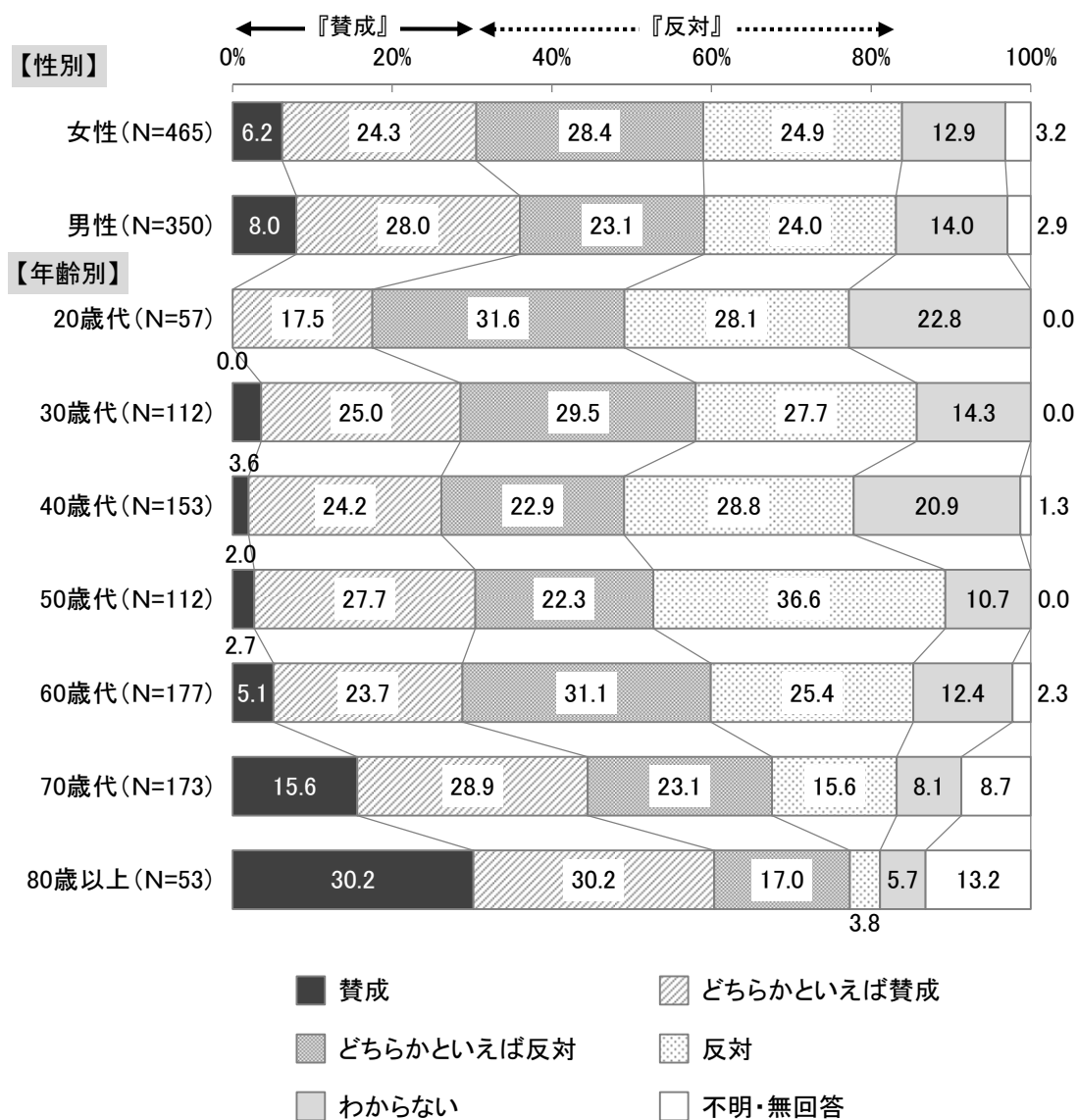
※2 『反対』・・・『反対』と「どちらかといえば反対」を合わせたもの

※3 今回調査・・・2016（平成 28）年度に実施した「東郷町男女共同参画社会に関する意識調査」

※4 前回調査・・・2006（平成 18）年度に実施した「東郷町男女共同参画社会に関する意識調査」

※5 内閣府調査・・・2014（平成 26）年度に内閣府で実施した「女性の活躍推進に関する世論調査」

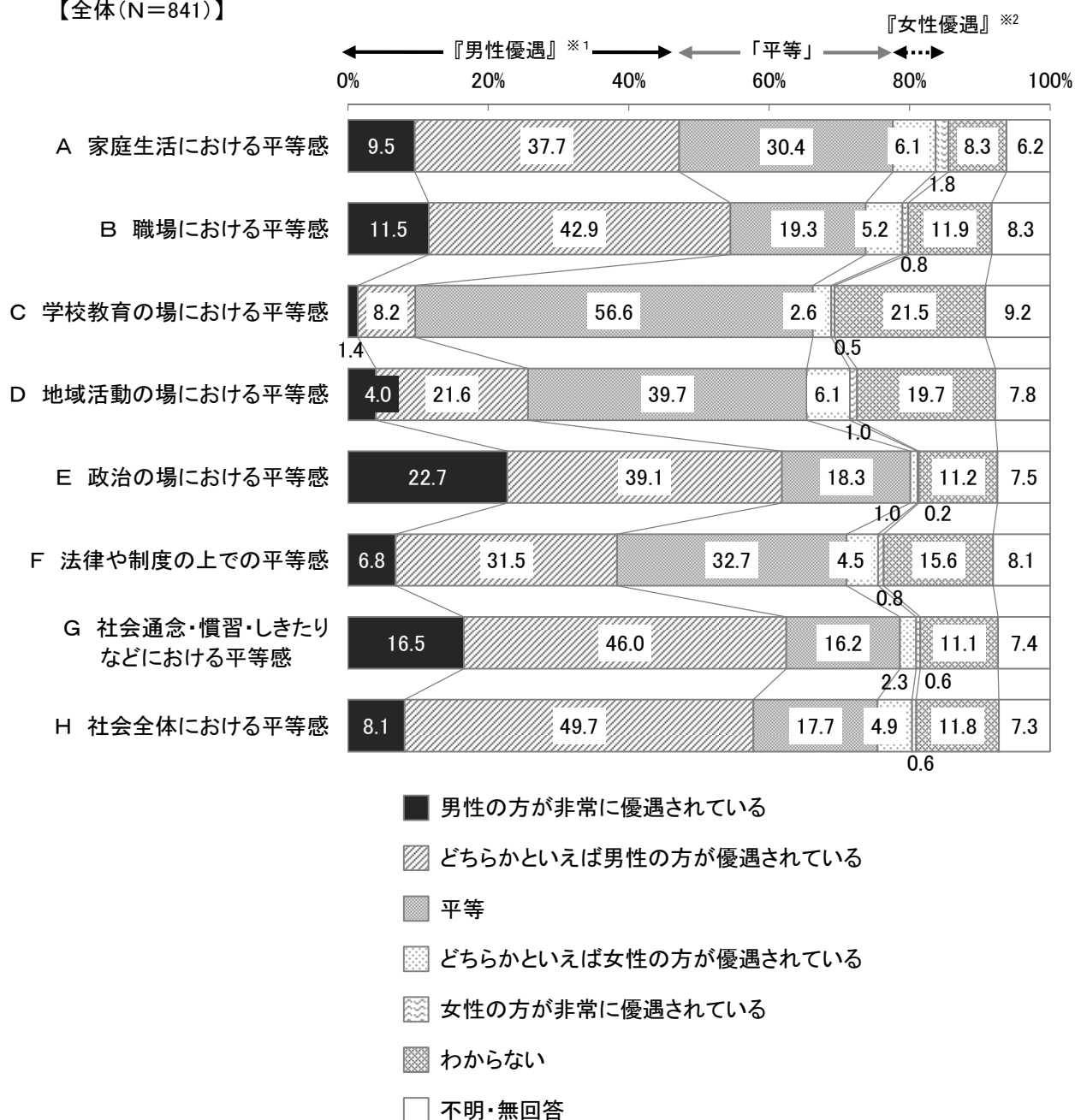
■「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」という固定的な役割分担意識 【男女別、年齢別】



資料：東郷町男女共同参画社会に関する意識調査（2016（平成28）年度）

■男女の地位の平等感について

【全体(N=841)】



資料：東郷町男女共同参画社会に関する意識調査（2016（平成28）年度）

※1 『男性優遇』・・・「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が非常に優遇されている」を合わせたもの

※2 『女性優遇』・・・「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が非常に優遇されている」を合わせたもの

現状2 女性の活躍できる環境が整っていない

審議会等に占める女性割合は約 30%となっており、県内の市町村平均と比較すると高い状況にあります。しかし、女性委員の割合が 10%未満の審議会等が全体の 20%弱あり、政策や方針決定の場における女性の参画は、分野によってばらつきがあります。

また、一般的に女性が職業をもつことについて、前回の調査と比較すると、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」の割合が低くなり、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が高くなっています。

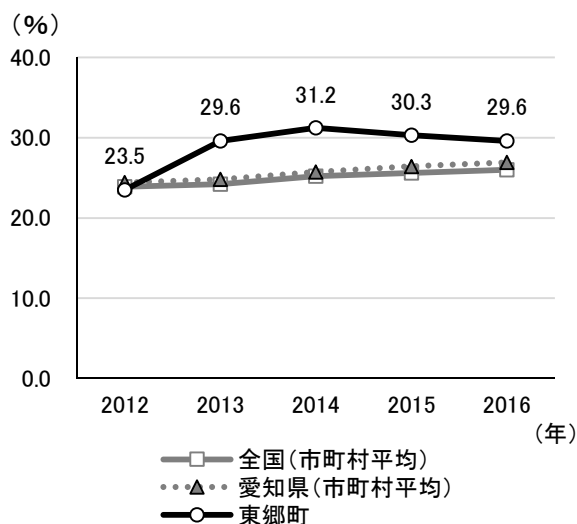
一方、働いている女性が仕事をするうえで、「仕事と家庭の両立が難しい」という悩みを抱えている現状があります。

育児休業の取得状況についてみると、父親の取得割合は大変低い状況にあります。また、母親が取得していない理由として「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」や「仕事に戻るのが難しそうだった」、「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」が上位にあがっており、職場において女性の活躍できる環境が整っていないことがうかがえます。

▼課題2

- ◆政策・方針決定の場への女性の登用
- ◆就業環境の整備
- ◆女性の就業支援

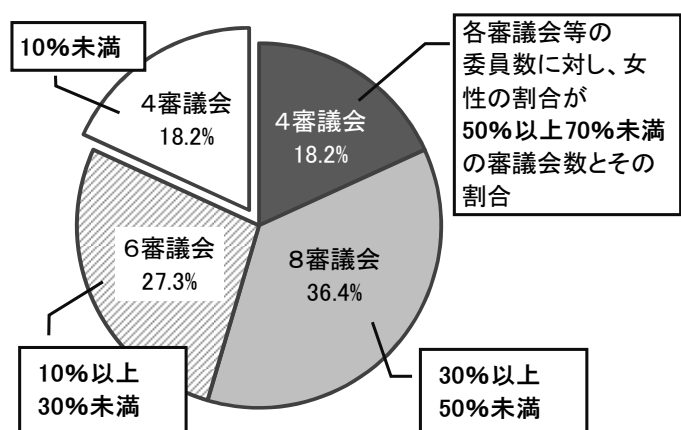
■審議会に占める女性割合の推移と比較（再掲）



資料：内閣府「地方公共団体における男女共同参画社会の形成又は女性に関する施策の推進状況」（各年4月1日）

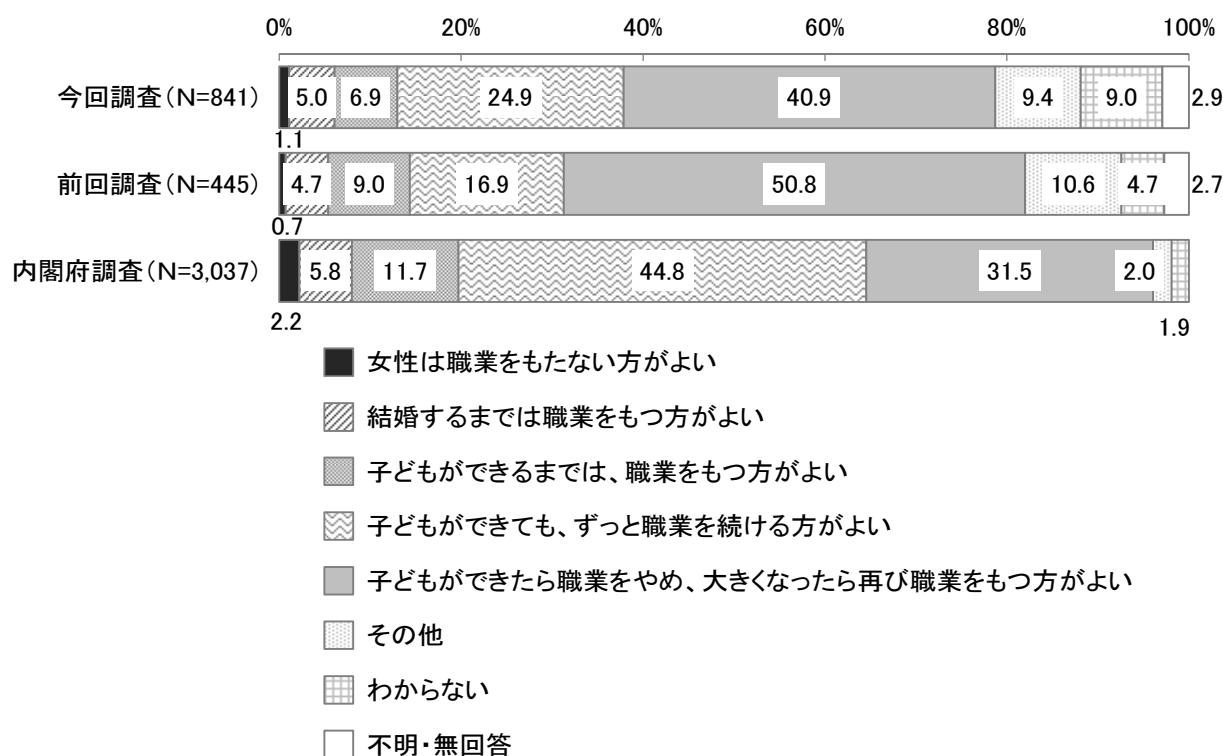
資料：東郷町くらし協働課

■女性委員の割合別審議会数の状況



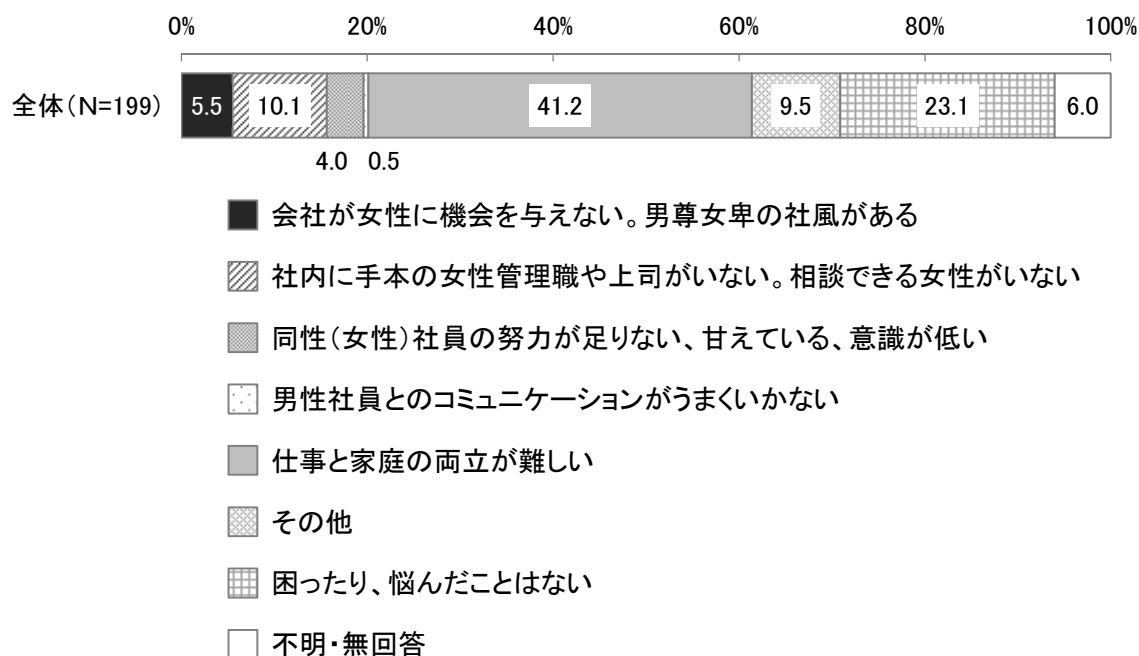
資料：東郷町くらし協働課（2016（平成28）年）

■一般的に女性が職業をもつことについて



資料：東郷町男女共同参画社会に関する意識調査（2016（平成 28）年度）

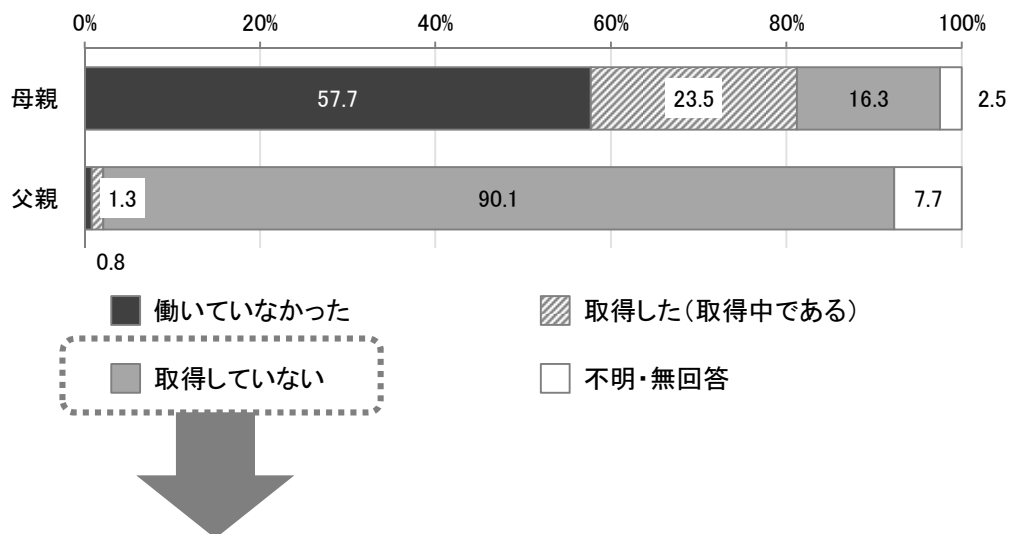
■仕事をするうえでの悩みについて（働いている女性に質問）



資料：東郷町男女共同参画社会に関する意識調査（2016（平成 28）年度）

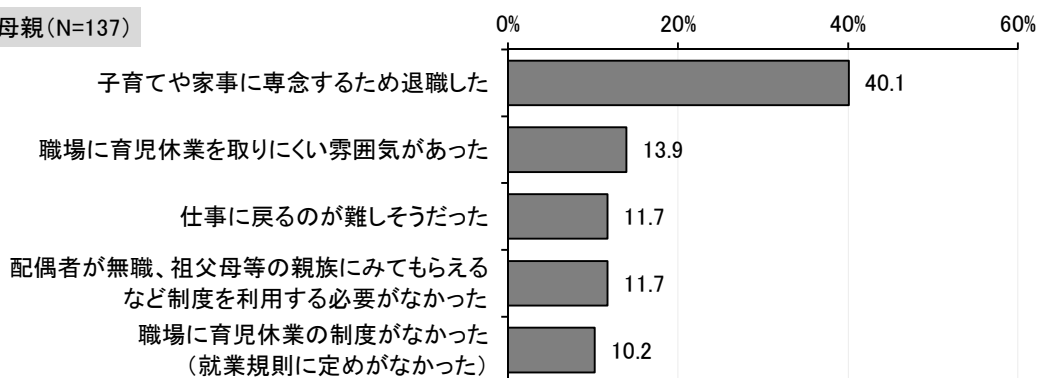
■育児休業の取得状況について

就学前児童(N=842)

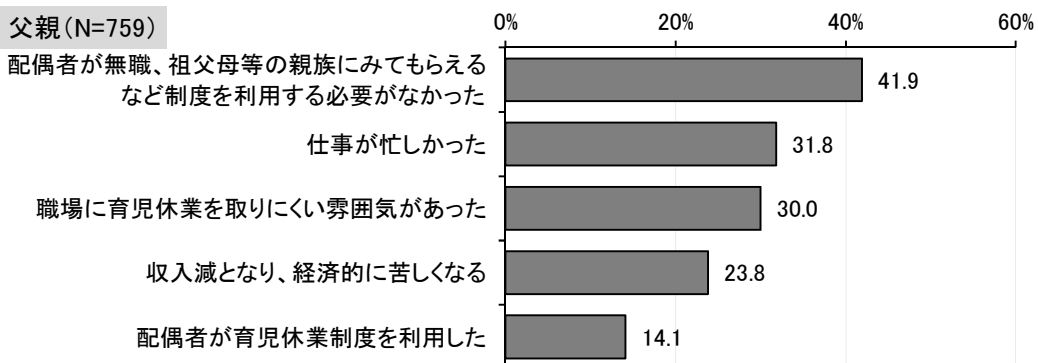


■育児休業を取得していない理由について【複数回答】(それぞれ上位5位を抜粋)

母親(N=137)



父親(N=759)



資料：東郷町の子ども・子育てに関するアンケート調査(2014(平成26)年度)

現状3 ワーク・ライフ・バランスが進んでいない

特に男性において「仕事と家庭生活をともに優先したい」と希望している人が多くなっているのに対し、現実では「仕事を優先している」人が多く、希望と現実ギャップが見られます。

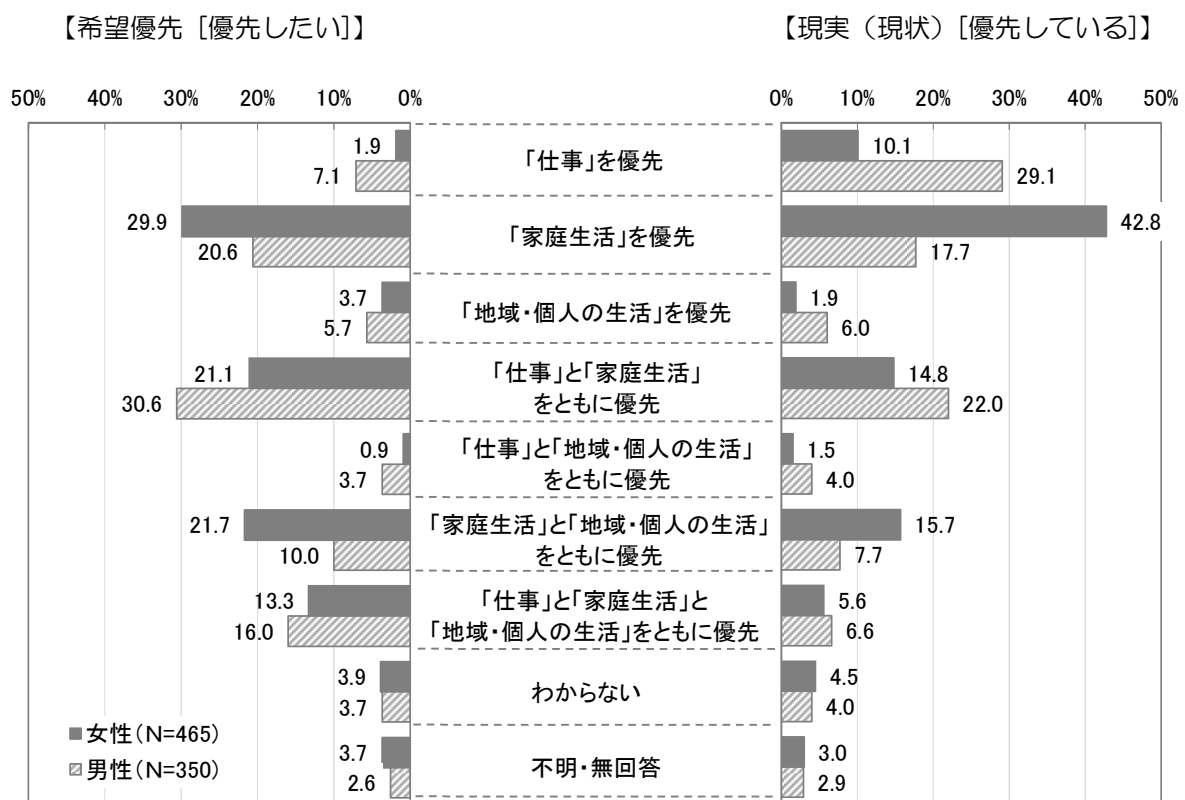
全国的には、総務省の労働力調査における週労働時間が 60 時間以上の従業員の割合をみると男性が女性を大きく上回っており、男性が家庭生活・地域活動に参画できるよう、企業側の努力も必要となっています。

また、ワーク・ライフ・バランスの実現に向け、町役場は一事業所として、町内企業の模範となれるよう率先垂範することが求められています。

▼課題3

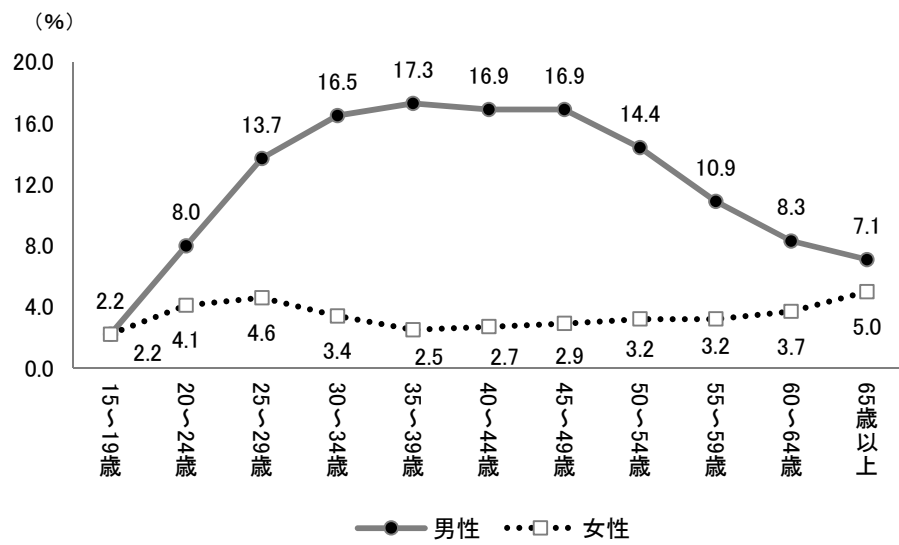
- ◆男女の職業生活と地域・家庭生活との両立の推進
- ◆企業における取組の促進
- ◆町役場における率先行動の推進

■「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について



資料：東郷町男女共同参画社会に関する意識調査（2016（平成28）年度）

■ 週労働時間が 60 時間以上の従業者の割合について(全国)



資料：総務省「労働力調査」(2014(平成26)年度)

現状 4 配偶者などからの暴力が根絶できていない

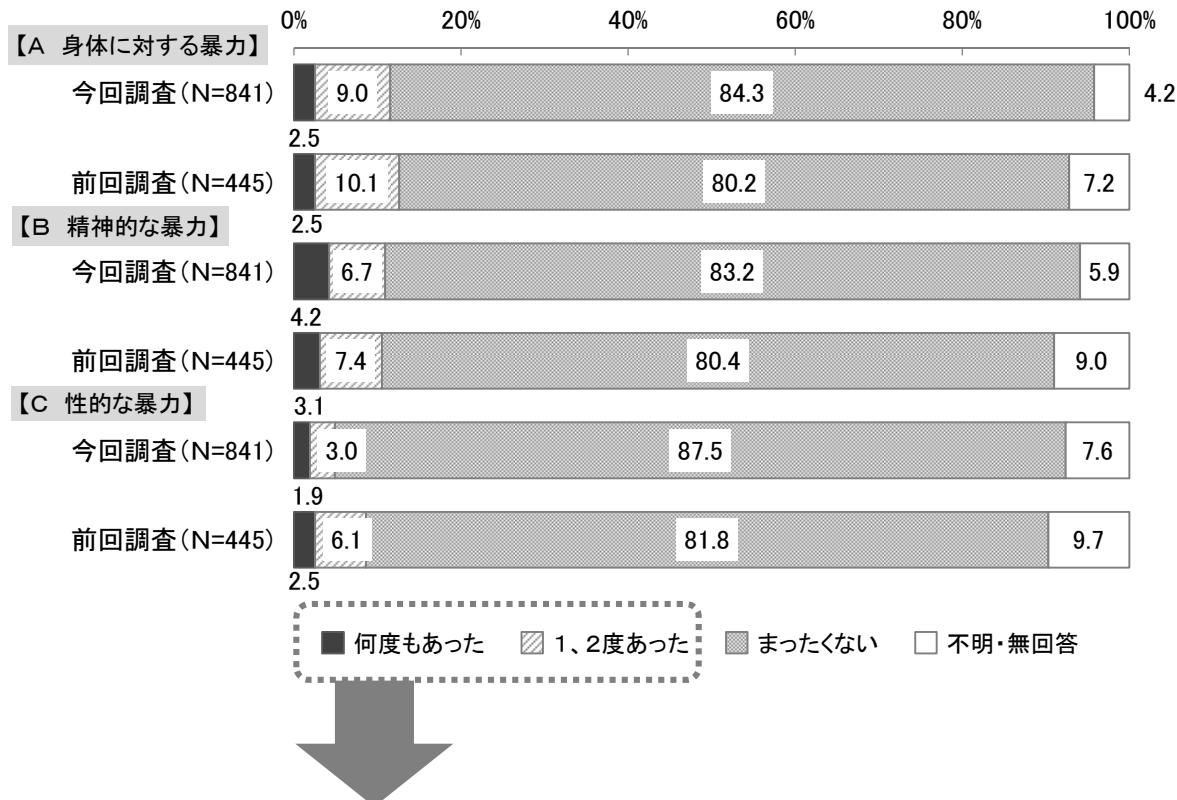
DV被害者は、多くの場合、女性であり、これは、男女の不平等な関係や男女の固定的な性別役割分担意識、経済力の格差などに起因していると考えられます。交際相手や配偶者から身体的、精神的、性的な暴力の有無については、「何度もあった」「1、2度あった」と回答した人が、1割前後います。

また、DV被害者は4割超が暴力を受けた後、誰にも相談しておらず、相談しなかった理由として、「相談するほどのことではない」が5割を超え、「自分さえ我慢すればいいと思った」が4割弱となっています。暴力が当事者間だけの問題となっていることが、暴力が根絶できない一因であると考えられます。

▼課題 4

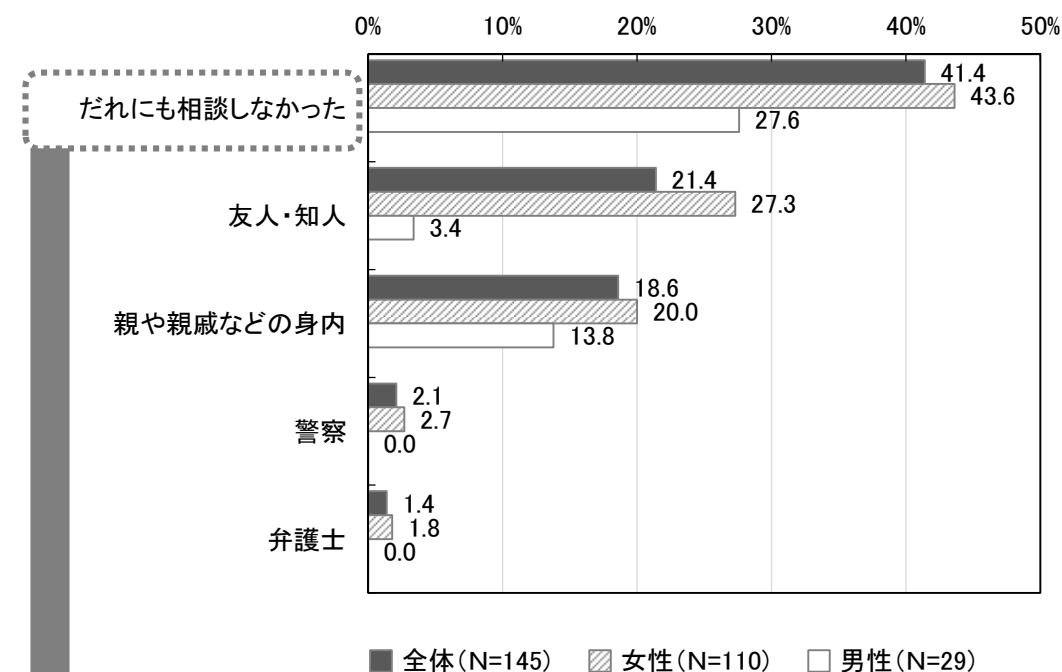
- ◆配偶者等に対するあらゆる暴力を根絶するための啓発や情報の提供
- ◆暴力の被害者への支援体制の強化

■交際相手や配偶者から身体的、精神的、性的な暴力の有無について



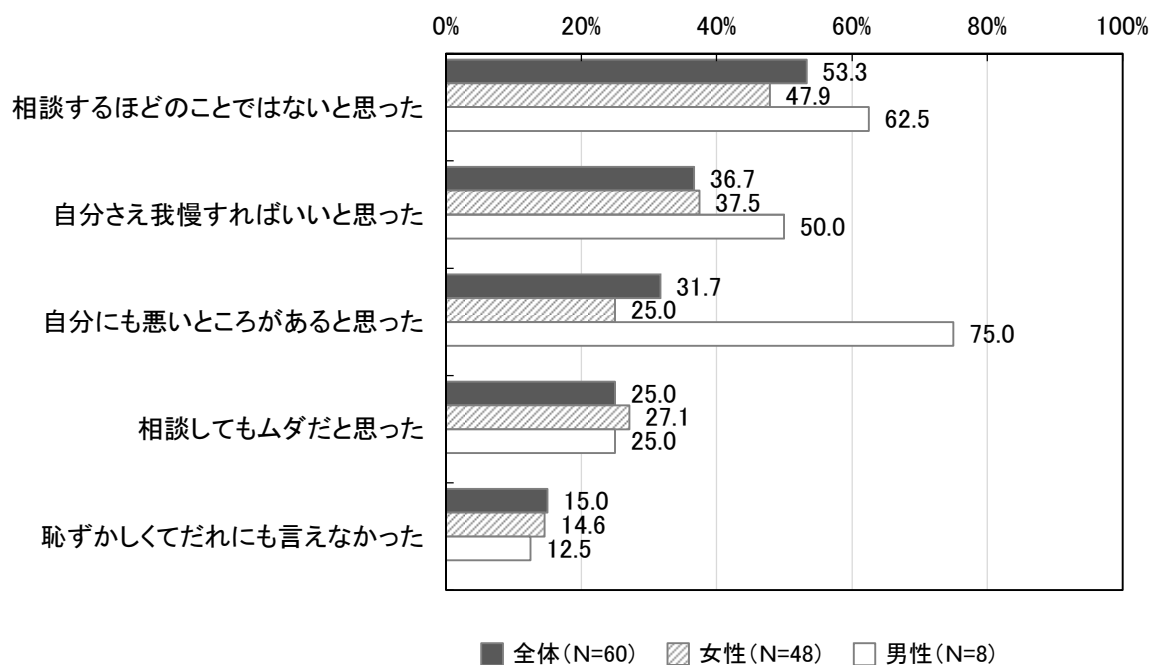
資料：東郷町男女共同参画社会に関する意識調査（2016（平成28）年度）

■交際相手や配偶者から暴力を受けたあと、だれか(どこか)に打ち明けたり、相談したりしたかについて【複数回答】
(全体の上位5位を抜粋)



資料：東郷町男女共同参画社会に関する意識調査（2016（平成28）年度）

■相談しなかった理由について【複数回答】（全体の上位5位を抜粋）



資料：東郷町男女共同参画社会に関する意識調査（2016（平成28）年度）